

組織的な大学院教育改革推進プログラム

総合研究大学院大学物理科学研究科の大学院教育改革推進プログラム「研究力と適性を磨くコース別教育プログラム」が採択され、平成21年秋から実施されている。3年間のプログラムとして、平成23年度まで続く予定である。

物理科学研究科では、物理科学の学問分野において高度の専門的資質とともに幅広い視野と国際的通用性を備えた、社会のニーズに答えることのできる研究者の育成を目指した教育が行われている。本プログラムでは、本研究科のこのような教育の課程をさらに実質化し、学生の研究力と適性を磨き、研究者として必要とされる総合力、専門力、企画力、開発力、国際性などを身に付けさせることを目的としている。そのため、博士課程前期における大学院基礎教育の充実とともに、博士課程後期におけるコース別教育プログラムを実施する。本研究科の大学院教育が行われている各基盤研究機

関では、国際的に最先端の研究プロジェクト、大規模研究プロジェクト、企業との開発研究プロジェクトなどが数多く推進されており、本プログラムは、このような優れた研究的環境を最大限に生かした教育の実質化を目指している。また、eラーニングの積極的活用により、学生の成績評価、学生による授業評価、教員のファカルティ・ディベロップメント（FD）に関する組織的取り組みを行なっている。昨年度この大学院教育改革推進プログラムに伴う履修規定の改定を行い、現在、コース別教育プログラムの実施、共通専門基礎科目のeラーニング化、学生が主体で企画運営する研究科学生セミナーなどの積極的な取り組みが行われている。

(桑島 邦博 記)



「研究力と適性を磨くコース別教育プログラム」
<http://www.ps-edu.soken.ac.jp/>

COLUMN

分子研での生活

武藤 翼

総合研究大学院大学物理科学研究科機能分子科学専攻

むとう・つばさ

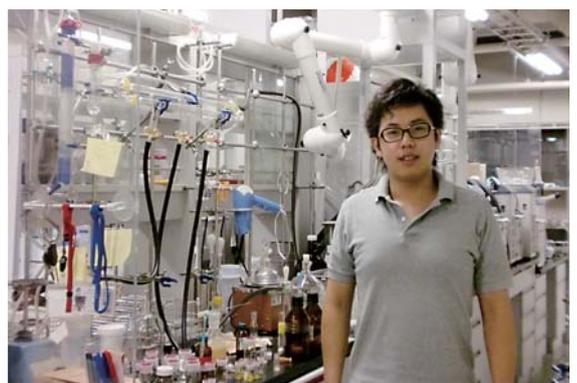
2009年4月総合研究大学院大学・物理科学研究科・機能分子科学専攻（分子研）に入学。無事に出所できることを切に願いながら、博士号取得を目指し日々研究しています。専門分野は有機合成・錯体化学。今年の抱負は「目指せマイナス5キロ！」。

こんにちは！ 武藤翼と申します。私は2009年4月から分子研・錯体触媒科学研究部門・魚住グループに所属しています。私は有明工業高等専門学校を卒業後、豊橋技術科学大学の学部3年次に編入しました。豊橋にて学士および修士号を取得後、総研大5年一

貫制博士課程の3年次に編入しました。少し特殊な学歴だと思っていたのですが、意外と高専出身者が岡崎三機関（分子研・基生研・生理研）に在籍されていて驚いています。学部・修士時代は錯体触媒を用いた不斉合成を行っており、特に不斉ハロゲン化反応について

研究していました。分子研に来てからは、魚住教授の下で、新規水中機能錯体触媒の開発に取り組んでいます。

早いもので、本コラムを執筆しているときには、岡崎に来てから1年と3ヶ月が経とうとしています。分子研に初めて入所した時には、一回りも二回り



も大きくなってやる！ キリッ、と高い志を持っていたのですが、大きくなったのは腹まわりばかりで、焦りを感じています。こんな私ですが、本コラムの執筆を仰せつかりましたので、1年3ヶ月を踏まえ、分子研のこと、総研大のことや、私生活のことなどを赤裸々？に書いていこうかと思えます。本コラムの執筆を依頼されたとき、「面白い文章を書いてね！」と念を押されたこともあり、面白い文章を書こうと日々悶々としていたのですが、どう足掻いても書けそうにないので、面白くないなりにがんばります。

はじめに、分子研の魅力について語りたいと思います。これから総研大を目指す学生の方にもすこしでも参考になれば幸いです。

分子研は、名前の通り、分子科学に特化した研究機関で、理論科学系、光科学系、材料系や、生科学系等、幅広い研究領域と多くの研究室を持っています。また、分子研は、大学共同利用機関なので、各大学では購入しづらい高価な実験機器や、大型装置（例えば、極端紫外光施設 UVSOR や、最近話題のスーパーコンピュータ、920 MHz の NMR 等）を備えています。図書館も（カビ臭いのを除けば）非常に充実していて、一般図書は少ないものの、多くの科学論文や専門書が蔵書され、加えて、多くの電子ジャーナルを閲覧することができます（某大学の助教が言うには、まだまだ少ないらしい）。これらの研究設備の充実っぷりは、日本だけでなく、世界的に見てもトップクラスだと思いますし、分子研の魅力の1つです。

数多くの実験機器・装置が充実していることはとても魅力的ですが、分子研の魅力はそれだけではありません。私が一番魅力的に感じていることは、各分野に精通した優秀な教授陣・

ポスドクとの距離が非常に近いことです。日々レベルの高い濃密なディスカッションができるので、非常に有意義な時間を過ごすことができます。

しかしながら、総研大が併設されているとはいえ、研究室ごとの学生数が少ないため、たとえ博士課程の学生であっても余裕で「下っ端」になります。先生方、先輩方に日々頭が上がりません。ディスカッションでは言いくるめられてばかり。学部4年生ではじめて研究室に配属されたときの、あのどうしようもない感覚が蘇ります。かといって、他の大学では、博士課程の学生ともなれば、後輩相手に偉そうなことを1つや2つしているお年頃なのに、学部生がいないので、そういったこともできません。そんなこんなで、悶々としてきた時は、研究室を離れて外の空気を吸うことをおすすめします。岡崎三機関にはバドミントン部やフットサル部等のサークルがありますので、ちょっとした息抜きにもってこい。最近、私は息抜き+ダイエットを目的としてバドミントン部に通いはじめました。おすすめです。ちなみに今のところダイエットの効果は残念ながら得られておりません。

話がそれたような気がしますが、これら良い面、悪い面を含め、全てが分子研の魅力です。このような大学とは一味も二味も違う分子研の魅力的なインフラを活用して、博士号を取りましょう！ というコンセプトで創設された大学院大学が総研大・機能／構造分子科学専攻です。

他の専攻も同様に、各研究基盤の中に総研大の各専攻が設立されています。そのため、各専攻が全国津々浦々に散らばっていることも総研大の特徴です。総研大にも（一応）本部の葉山キャンパスがあって、そこで入学式／修了

式や全学事業等を行います。入学式を終えた後は、学生セミナー実行委員や総研大ワークショップ等の全学事業や、総研大主催の全専攻向け授業に参加しない限り、同期入学の方とは入学式以降会えなくなる可能性がありますので、入学式で多くの友人を作ることが、今後の学生生活を送る上で重要になってきます。これから総研大に入学しようと思っている方は、是非他専攻の学生と仲良くなってください。他専攻の学生の話は非常におもしろいですよ。

いろいろ書かせていただきましたが、私自身、分子研／総研大での学生生活におおむね満足していますが、私自身、分子研／総研大での学生生活におおむね満足していますが、少し特殊な環境は、来る人を選ぶと思いますが、自分を鍛え直し、視野を広げたい方には非常におすすめです。以上、全体的にまとまりのない文章になってしまいましたが、いかがでしたでしょうか。このコラムが、これから総研大を目指す学生に、すこしでも役立ててもらえれば幸いです。